

就業の意志あるものは別々に申出でらるべし。

七月廿一日

- 三菱造船株式会社神戸造船所
- 三菱内燃機株式会社神戸工場
- 三菱電機株式会社神戸工場

會社が前記の如く略開場に方針一決せしにも拘らず斯く突然に無期休業を断行するに至れるには又理由なかるべからず。會社側に於ては切崩し運動者々奏効し生活困難なる職工等の復歸を希望するもの續出せるを見て大いに意を安んずる處ありしが、尙職工側の勢力侮どり難きものありたれば凡て職工側の態度を見たる上にて其の對策を講ずる事に決定し居たりしなり。斯る處へ二十日に於ける職工側最高幹部會に於ては休業明け後の方針に關し何等の決定を見ず上京委員の報告を聴取せしのみにて廿一日午後一時より更に其の方針を討議する事となりて散會せりとの情報は會社側に齎されたり。茲に於て兎も角開門すべしとの事に議は纏まりしなり。然るに一旦引取りたる三菱各工場選出委員の最高幹部會議は同夜深更に至り突然非常再召集を行ひ會社側の不誠意なる態度に對して罷工團として執るべき今後の方針に就きて各自意見を闘はし何れも盛に硬論を吐きたるが最後に一幹事より「最近職工の結束が弛んだ如く傳へられつゝあるのを耳にするが此際各委員幹事は胸襟を開いて協議しては」と前提し「第一日下休業中の會社が休業明けに門を開けば諸君は一先づ出勤する考へか又出勤せぬ考

へかを無記名投票に依つて明かにしたいと思ふが如何」との動議あり、一同之に賛成し投票の結果全員三十名中「出社して怠業すべし」との意見三名のみにして他は悉く「出勤せず」とありたれば、更に「出勤せずと決せば缺勤願の形式にて休業すべきか如何」との問題を投票に問ひ、結果「缺勤届を出すべし」と云ふもの四票、他は全部盟休状態を持續すべし、缺勤届を出す必要なし」と夫をも問題にせず、要するに會社側の誠意の認めらるゝまで全職工は同盟罷業を断行し目的貫徹の爲に暴進すべしとの非常に鞏固なる決議を爲し二十一日拂曉午前三時に至り散會せり。此の職工側最高幹部會の決議は早くも會社側に通報せられ、茲に再び緊急幹部會は開催せられ協議せる結果、前記の如く無期休業を断行する事に決定し同夜徹宵して準備を整へ二十一日未明漸く之を發表するに至りしものなり。

一方職工側に於ては休業十日目も例日の如く會下山遊園地に集合し調印せるが、此朝(二十一日)委員等は前夜深更最高幹部會に於て決議せる罷業方針に就き逐一報告す。更に委員等は會社の無期休業宣言に對して應戰準備として行商隊を増加し大々的の持久戦に移るべく其の具體的方法協議の爲め第二互助俱樂部へ引揚げたり。開始以來連日好成绩を收めつゝありし行商隊は斯くして二十一日には更に百二三十組を新たに組織して五百に近き職工團が荷車其他を曳き出し五六名を一隊として争議本部を繰出せり。此日は柴仁石鹼、扇子、タオル等の日用品の外ゴム靴、パン、サイダーの如きものに至るまで仕入れ、遠くは大阪、明石方面より境濱海水浴場附近へまで行商せしめたり。